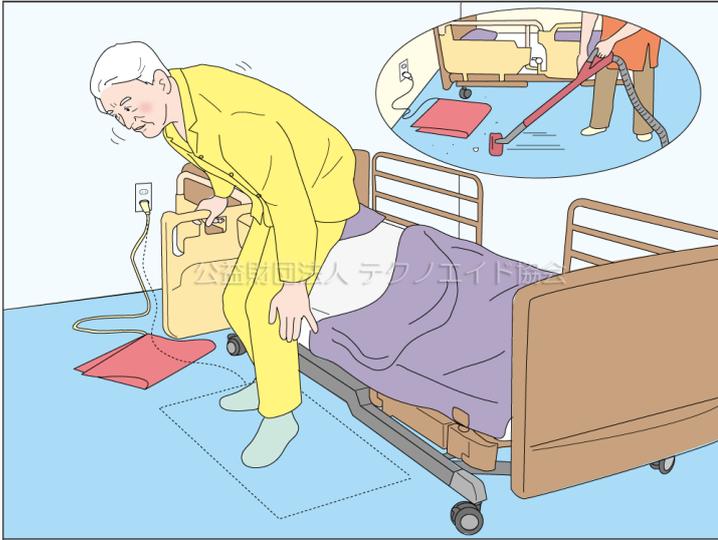


Case : 358

離床を感知できず、自力移乗で転倒しそうになった

場面の説明

センサーマットが定位置になかったため、離床を感知できず、介助レベルの利用者が自力で移乗し転倒しそうになる



| | |
|----------------|---|
| 利用シーン |  移乗 |
| 主な利用場所 |  寝室 |
| 介護保険の種目 |  認知症徘徊感知機器 |
| 分類コード (CCTA95) | 215190 (徘徊老人監視システム) |
| 介護テクノロジー |  見守り・コミュ（在宅） |
| 二次元バーコード |  |

解説

コールボタンで介護職員を呼ぶことができないため、センサーマットで離床確認をしていました。誰かがセンサーマットを動かしたため、定位置になく、離床を感知できず、介助レベルの利用者が自力で移乗し転倒しそうになりました。定期的にセンサーマットの設置状況の確認が必要です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：利用者がコールボタンで介護職員を呼べなかった
 モノ：誰かがセンサーマットを移動し、戻し忘れていた
 管理：センサーマットの設置状況の確認が必要